

三重県の土地改良事業紹介 32

広域農道整備事業 中勢三期地区について

津農林水産商工環境事務所 農村基盤室 基盤整備2課

中村絵里

1. 事業の目的

広域農道整備事業は、農業の振興を図る地域において、広域営農団地育成対策の一環として、営農団地における農道網の基幹となる農道を整備することにより、高生産性農業を促進し、もって農業の近代化と農村環境の改善に資することを目的としています。



位置図

2. 事業の概要

津農林水産商工環境事務所が担当している広域農道中勢地区は、①中勢地区、②中勢二期地区、③中勢三期地区の3地区で整備を進めてまいりました。この地区は、津・安芸農協エリアの津市(旧津市及び旧河芸町・旧芸濃町・旧美里村・旧安濃町)、並びに、三重中央農協エリアの津市(旧久居市及び旧一志町・旧白山町・旧美杉村)及び、一志東部農協エリアの松阪市(旧嬉野町・旧三雲町)と旧香良洲町に跨る12,030haの農地を中勢広域営農団地として設定し、その団地内の生産地から農業近代化施設へ、並びに、農業近代化施設から県中央卸売市場への安定的な農産物流通ルートを確認すべく、中勢広域営農団地の農道網の基幹となる農道として、旧芸濃町地内の県道亀山白山線から旧白山町地内の国道165号線までの20,635mを中勢地区、中勢二期地区として工事を実施し、平成4年度に完了、現在供用しています。



県道久居美杉線・白山ヴィレッジゴルフ場入口付近



県道白山小津線側



併走する小野谷川とのルートは補強土壁工法を採用



白山ヴィレッジゴルフ場下を通る広域農道(施工中の函渠工)

今回紹介させていただく中勢三期地区は、中勢二期地区に接続する津市白山町二本木地内の国道165号線より、松阪市曾原町地内の国道23号線に至る22,793mの内、基幹農道として5,911mの整備を行うものです。

3. 中勢三期地区の実施状況について

中勢三期地区は平成7年度の着手以来、一志工区(1.2km)は平成13年度に、嬉野三雲工区(3.0km)は平成16年度に、それぞれ完成し供用を開始しています。

当初、計画しておりました一志嬉野工区(5.4km)は、営農関係施設の位置変更や、県道一志美杉線(白山小津線)波瀬バイパスが代替機能を有する路線となったことなどの社会経済情勢の変化に伴い、平成19年度に計画変更を行い、本事業計画から削除しました。中勢二期地区に接続する津市白山町二本木地内の国道165号線より1.1kmは、県道二本木御衣田線バイパスとして整備が計画され、県道久居美杉線までの1.0kmは改良済みの県道二本木御衣田線を利用しております。

残る白山工区(1.7km)については、県道久居美杉線と県道白山小津線を結ぶ道路計画上重要な工区であり、平成9年度以来、関係地権者と協議調整を進めてきましたが、平成19年度にすべての用地買収補償契約を締結し、一部工事に着手しました。平成20年度からは、県道久居美杉線側と白山小津線側の両側から工事にかかり、本格的な道路工事に着手しています。

農道事業をはじめとする農業農村整備事業予算の削減など、事業を取り巻く環境はたいへん厳しい状況にありますが、今後は、更に計画的、段階的に工事を進め、出来る限り早期に事業を完了し、一体的な流通経路として早期に効用を発揮させ、交通と営農の利便を図ることにより、地域住民を含む関係者の期待に応えられるよう引き続き努力いたします。